

新潟教育研究所

令和5年3月16日発行 第52号

公益財団法人 新潟教育会
新潟教育研究所

〒951-8104

新潟市中央区西大畑町590-3 新潟教育会館
URL <http://kyouikukai.jp>

TEL・FAX 025-222-2971

E-mail kenkyujo@kyouikukai.jp

新たなフェーズに入った「教育の情報化」 - 学習の質を高めるICTの活用へ -

長岡市教育委員

荒木 正



退職して7年が経過し、教育委員として4年目を迎えました。この間、多くの学校を訪問してきましたが、学習環境が大きく変わりつつあることを実感します。特に、ここ2～3年のGIGAスクール構想に基づく一人一台のタブレットの配布や今までの延長ではない全く新しいICT環境の整備などが前倒しで実施されたことには驚きすら感じます。OECD加盟国に比べて1周遅れと言われてきた日本の学校に、「教育の情報化」の時代が一気に到来したのです。

実際にタブレットを巧みに操作する子どもの姿に驚きすら感じます。校長との懇談では、とにかくICTを使ってみる、子どもも教師も使うことに慣れる、ICTデジタルの特性や可能性さらには使用上の課題やICTを活用した授業の在り方等を模索しながら、「ICTの日常化」へと取組を進めていることなどが力強く語られました。

一方、「教育の情報化」が推進されている中で、各種の研究協議会等で指摘された次の2点は十分に留意すべきことと考えます。

- ① ICTの活用に関しては、地域間格差とともに学校間格差が大きい。その大きな要因の一つとして校長のICTの活用に関する意識の差が大きいこと。
- ② ICTの活用が不得意な教師が指導力のない教員では決してない。中堅・ベテラン教師の授業力を大いに生かし、そこにICTをどう取り込むかを検討すべきであること。

現在は、「令和の学び…ICTはマストアイテム」が共通認識となり、「学習の質を高めるICTの活用」へと新たなフェーズに移行しつつあるようです。ここで大切にしたいことを2点挙げたいと思います。

1点目は、自分の目指す授業の姿を授業提案という形で行うことです。ICTの活用を通した「孤立した学び」や「孤独な学び」ではない「個別最適な学びの姿」、「個別最適な学びと協働的な学びとのつながり」、そして、「ICTを活用した学びが長期記憶にどう有効に機能しているのか」などを、互いに授業を通して提案し合い、イメージの共有化を図っていくことを大切にしてほしいということです。

2点目は、情報モラルに関することです。ICTを活用した学習者主体の学びを支えるためにも、これまでのデジタルにおけるデメリットのリスク管理（あなたは何をしてはいけないか）を中心にした「情報モラル教育」から、デジタルのメリットを踏まえた責任ある主体的利用（あなたは何ができるか）をしていくための「デジタル・シティズンシップ教育」を推進してほしいということです。

「学習の質を高めるICTの活用」は、教師一人一人が挑戦的な取り組みを積み重ね、多くの失敗を糧にしながら確立していくものです。まずは「挑戦」そして「提案」です。

休符



新潟教育研究所教育アドバイザー

太田三平

はじめに

三三七（さんさんな）拍子は、仲間を激励するための手拍子です。本当は四四八（よんよんはち）拍子。でもなぜか休符は数えません。そんな「Sound of silence（休みという名の音符）」を大切にしてきました。

短い休符

シャン シャン シャン ウン のウンが消えている三三七拍子。そこにソレ！、ヨッ！、ハッ！など威勢のいい相づちが自然に入ります。もしウンがなければただの十三拍子になってしまいます。これではメリハリがありません。ウンは休符。この短い休符があることでリズムに弾みがつきます。

ベートーヴェンもラヴェルも上手く使います。「運命はこうして扉を叩く」で有名な『運命』¹の出だし。「ジャジャジャジャー」。実はその前に休符があります。そして、ラヴェルの「ボレロ」。コーダ（結び）の旋律は、まず休符を打って、放物線を描きながら見事に着地します。短い休符はエッジを立てます。

長い休符

音楽の授業で扱う合唱曲のほとんどが前奏付きで、前奏が流れている時、歌のパートは休符です。「大地讃頌」²の楽譜も歌のパートは休符から始まります。ゆったりとした前奏（組曲なので本当は間奏）と並行する休符にあれこれ思いを巡らせ、息を吸い、そして「母なる」を歌います。休符はさらに、心地よい空間をつくります。

前半の合唱が一息つく所、そこをピアノで見ると間奏になるのですが、歌から見た曲の構成では静かに始まったバラードがだんだん盛り上がり、「感謝せよ！」で気持ちよく声を張り上げ、少し

不安定なハーモニーを響かせて静寂を迎えます。いいタイミングでクールダウンができます。そして、息を整えて「平和な大地を～」に向かいます。最後の練習の時、「感謝せよおで写真撮るよ。いい顔して」と伝えます。みんないい顔になります。長い休符は、曲づくりのプラットフォーム（足場）になっています。

「中学校学習指導要領」より

「教科の目標」の柱書を受け、育成を目指す資質・能力として(1)に「知識及び技能」の習得に関する目標が示され、「音楽」では「曲想と音楽の構造～」が記されています。休符は小学校から学習指導要領の〔共通事項〕に位置付けられますが、音符をはじめ用語や記号とくらべて注目されず「休み」としてしか認識されません。しかしその役割を説明すると、子どもたちは休符の意味を考え、大切にできるようになります。

休符は音が出ません。その分、様々なイメージを膨らますことができます。「こんな風に歌いたい」から始まり、自分の思いや意図を他者と伝え合い共有したり共感したりする活動を休符を手立てに組み立ててみると、きっと新しい発見があると思います。

おわりに

最近、イントロゼロ（前奏抜き）の曲が増えてきました。また、映像作品を倍速で見たり、ソーシャルメディアで自分の好きなサービスばかりを休むことなく収集したりしている子どもや大人が多くなっているようです。このような時代だからこそ、休符の得意技が活きるのかもしれない。

¹交響曲 第5番 ハ短調 作品67

²混声合唱のためのカンタータ「土の歌」より

冬来たりなば

新潟教育研究所 研究員

宮川由美子



はじめに

油断を見透かしたように、12月半ばにドカ雪となった新潟市。知人は、まだノーマルタイヤだった。我が家は、まだスノーダンプが軒先に括り付けられていた。豪雪地帯に住む人には笑われそうだが、一年と言わず体力が低下する我が身にとっては、夜明けにドキドキしながら窓の外を見る雪かきの季節がスタートした。

1 ノーレイン ノーレインボー

「新潟市にじいる音楽祭」が久々に保護者の鑑賞可に踏み切った。子どもたちの張り切りようは言うまでもない。開場までかなり時間があるのに、受付前には保護者の長い列ができ、その期待と待ちわびた思いが伝わってきた。

コロナ禍は様々なことを子どもたちに我慢させた。音楽では歌うことや楽器を奏でること、貴重な体験の修学旅行、至近距離での友達との触れ合い、楽しい時間であるはずの給食時の黙食等々。狭められ制限された中で、どのように教育活動を展開していくか。目には見えない先生方のご苦労がどのくらいあったことか。

音楽は授業時数も減り、マスクを付けた中で満足のいく練習ができなかったかもしれない。でも、涙ぐむ保護者の姿に、音楽の力を感じた。スタッフとしてお手伝いした私は、終日、子どもたちが奏でる音の世界に浸った。雨上がりの虹、正真正銘の「にじいる音楽祭」

2 異分野こそカンフル剤

教員を目指す学生たちへの、大学の非常勤講師もやっとなのに、他学部の「教育心理学」の指導を引き受けて3年が経つ。相手は作業療法士や理学療法士を目指す学生と大学院生、それと現場経験を積んだ上で「その道の指導者」を目指す人たち。「教育心理学」なんて柄ではないと固辞したのだが「学校の現状、学校での管理職の在り方を

伝えてほしい」と寄り切られた。

不安しかなかったのだが、彼らのレポートは実に興味深く、老いた脳を活性化させてくれる。

- ・臨床に出て13年になるが、型にはまった管理しやすい体制は問題だとあらためて感じた。
- ・医療現場でも障がいと向き合う現実はあるが、障がいと向き合うだけではなく、その人と向き合うことが重要であると感じた。
- ・覚悟をもって臨床経験を積み上げていきたい。

3 勝てば〇〇 負ければ◇◇

にわかファンの一人として、2022サッカーワールドカップを楽しんだ。選手たちの粘り強いプレーに拍手し、スマートな監督に目を見張った。しかし、いつも疑問に思うのはマスコミの報道だ。勝てば、翌日オールサッカー。負けると、潮が引いたようになる。勝負の世界だから、結果としての勝ちがあれば負けもあるのに。

今の世の中、多くのことが「極端」と思うのは私だけだろうか。著名人が不祥事を起こすと、再び立ち上がれなくなるほどSNSで叩かれる。あるいはテレビの画面から遠ざけられる。悪かったことは悪かったこととして、「次からは」という懐の深さを私たちは無くしてしまったのだろうか。まあ、国を牽引する人たちが、次から次へと私たち庶民を侮るようなことを起こしているのは許せないけれど……。

おわりに

「雪、大丈夫でしたか?」「雪かき、大丈夫ですか?」数年前、自宅の雪かきに無理をして、数日寝込んでしまった不甲斐ない姿を知っている友人知人から、次々にメールが入る。

「早く出ますが、道路状態が悪いので少々遅れるかもです。」と職場に連絡すると、「時間は気にせず、休みも有りですよ。」との返信。周囲の温かさに包まれて、巡り来る春を待つ。



新型コロナウイルス感染対応、働き方改革、新学習指導要領への対応、日常の生徒指導対応などなど、学級担任の皆さんは疲れていないか。ゆとりがあるのか。こんな時だからこそ、少しでもいいから心にゆとりをもって、仲間と語り合いたい。

学級について、子どもについて、授業について、仕事について・・・飲み会がもてないならモグモグタイムでもペチャクチャタイムでも。

さて、目の前の子どもたち、考え方も価値観も成育環境もみんな違う。ぶつかり合うのが当たり前。問題の起きない学級などあり得ない。問題の起きない学級を目指すのではなく、みんなで知恵を出し合っ問題乗り越える学級を目指したい。そうは言っても、思うようにいかない日々、失敗の連続、でも、それが当たり前。子どもたちを思っのチャレンジに失敗はない。失敗を恐れて、何もしないことの方が子どもを不幸にする。

なぜ今、学級経営が大事なのか。もちろん学習集団としての学級、生活集団としての学級、どちらも欠くことのできない機能だ。どちらが大事かでなく、どちらも大事なのは言うまでもない。このクラスでよかった、この仲間と一緒によかった、この先生で

よかった、そう思える学級経営に努めたい。誰もがそう願っている。

では、子どもの心に火を点けるにはどうしたらいいのか。

- ・具体的な活動を通す。心に火をつけるには汗と涙が不可欠。譲れないのは本気だから。
- ・苦勞を体験させる。単にうまくできることがねらいではない。求める姿に近づくのに、何が足りないのかを子どもに考えさせ、子どもに行動を起こさせること。

実践例の紹介。「アルミ缶大作戦」を例に。

- ・「大空学級」の誕生から大空農園活動へ
- ・農園活動から「アルミ缶大作戦」の誕生
- ・立ちはだかる壁を乗り越える子どもたち
- ・活動を発展させる子どもたち
- ・そこに、子どもと共に熱中する担任がいる

あなたの持ち味を存分に発揮してほしい。下手なギターの音色と一緒に歌声が溢れ、時には怖い話が聞こえ、時には不思議な手品が登場し、しょっちゅうくだらないギャグが聞こえてくる。それでいい。

子どもたちにとって「最も魅力のある教育環境」それはアナタなのだから。

教育アドバイザーを要請して

長岡市立千手小学校 校長 五十嵐 恵一

教職経験が6年未満の学級担任が半数を超える当校。学級経営に日々悩む職員が多い中であって、夏季休業中に湯本正明先生からご指導いただくことができました。豊富な実践に裏打ちされた湯本先生の熱のこもったお話に引き込まれ、時間がたつのも忘れるくらいでした。学級づくりへの夢と希望をいただく貴重な研修会となりました。

研修終了後の職員の感想からは、湯本先生から勇気をもったり、自身の学級経営を振り返るよい機会になったりしていたことがよく分かりました。また、今回の研修に刺激を受け、学級担任が「学級の核となる活動はどのようなものにしようか」「自分は何で勝負していこうか」と早速考え始めていることもうれしく思いました。

湯本先生から蒔いていただいた種が、芽を出し、花を咲かせていく様子をそばで見守れる幸せをいただくことができました。職員の心に火をつけていただいたことに、心より感謝申し上げます。